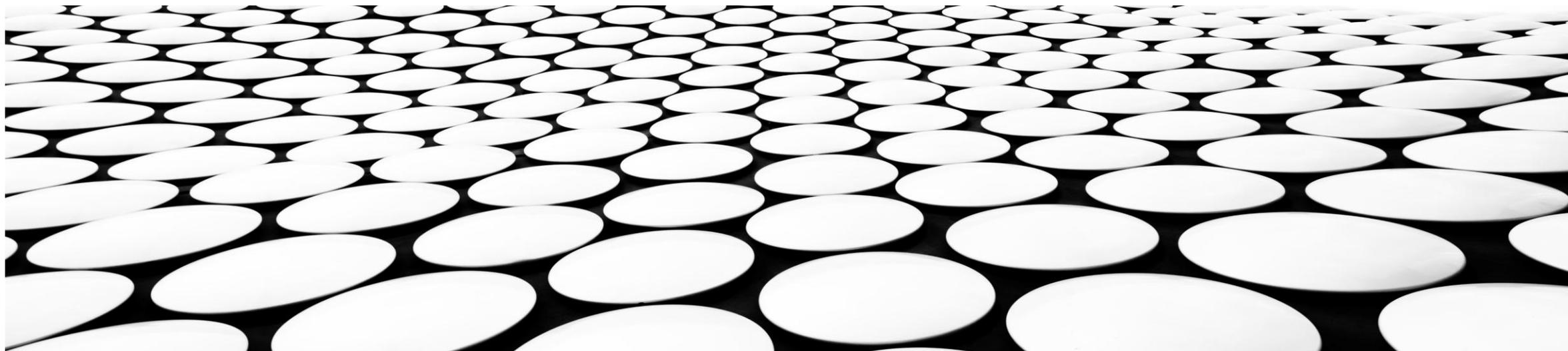


日本原子力学会 リスク部会・原子力安全部会 安全目標検討合同WG 安全目標WS

2026年3月31日 東京大学山上会館



プログラム

日時：2026年3月31日（火） 10:00~16:00

会場：東京大学本郷キャンパス 山上会館 大会議室

プログラム：

09:30~ 受付

10:00~10:05 開会挨拶（山本）

10:05~12:00 WGの検討状況としての論点の紹介

説明分担：成宮（1章、2.1、2.2）、小野寺（2.3、2.4）、成川（3章）

12:00~13:15 昼食休憩

13:15~15:00 意見交換 第一部（技術的な論点を中心に）（座長 成宮）

15:00~15:15 休憩

15:15~15:55 意見交換 第二部（社会との関係を中心に）（座長 山本）

15:55~16:00 閉会挨拶（成宮）

WSの目的

原子力学会のリスク部会と原子力安全部会は、合同の安全目標WGを設置し、2024年度、2025年度で安全目標にかかる検討を行ってきた。2025年3月には、それまでに議論した論点を活動経過としてまとめた経過報告書を発行した。

日本における安全目標にかかるいままでの議論を振り返り分析し、海外の安全目標の位置づけと使い方を調査し、そこで議論されてきたことと、1F事故後の原子力安全の取り組みを踏まえて、将来の安全目標の議論に資する論点として整理した。

2025年度はそれら論点の深掘りを議論してきた。本ワークショップにおいて専門家をパネリストとして迎え、参加者も含めた意見交換を行い、論点の充実を目的とする。

パネリスト

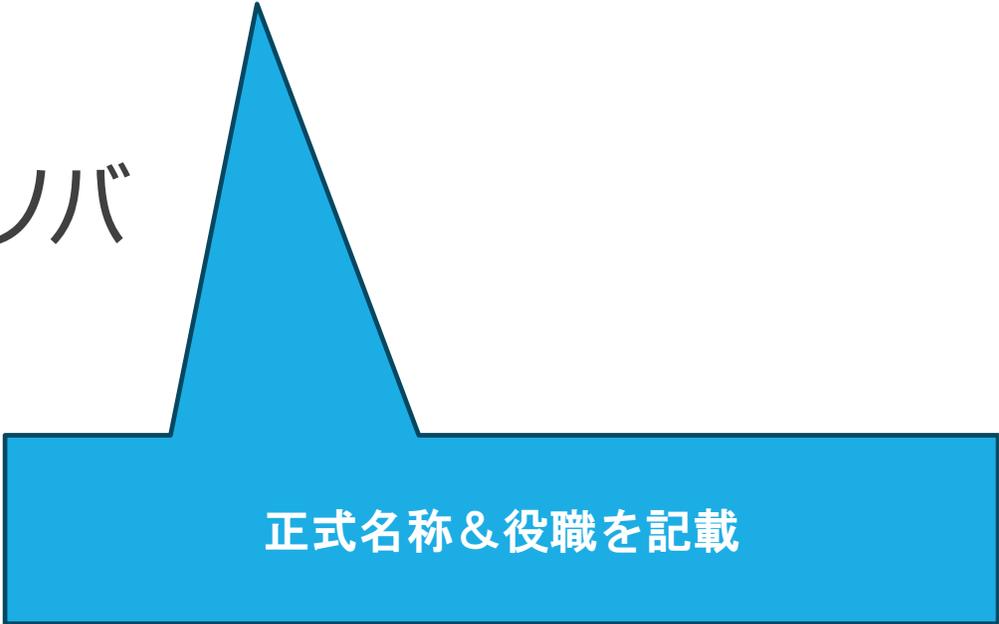
山口彰 NUMO

市村知也 NRA

片岡秀哉 ATENA

川村慎一 日立GEベルノバ

小野恭子 産総研



正式名称&役職を記載

意見交換 第一部

2024年度経過報告書では、次の3つが技術関係の論点である。

- 安全目標は必要か？ 無ければ問題は何か？ 逆に制定されると安全性向上の停滞にならないのか？
- 安全目標が対象とする範囲（施設、事象、リスク種類など）はどのように定義するのか？ 定量評価できていないハザードはどうするのか？
- 安全目標を適用する点からの階層構造の利点は？ 問題は何か？ 問題は解決できるか？（ALARP/ALARA、BSL/BSO）
- 安全目標・性能目標の定量値の導出・設定をどのように行うか？
- リスク評価結果との比較の考え方は？ 不確かさへの対応は？

意見交換 第二部

- 安全目標を社会と約束する必要があるか？あるいは社会へのメッセージで良いのか？
- 社会と約束できたと言える状況はどのようなものか？それは達成可能か？
- 安全目標は原子力施設の安全対策の妥当性(防護の最適化)を確認するための参考か？原子力利用の正当性を確認するために使用できるか？